

想像しまししょう。

Image.

Image. Fukushima

vol.2

イメージ・フクシマ

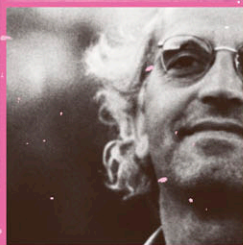
IN 東京 | ユーロスペース
2011.9.17SAT—23FRI,

【トークゲスト】

開沼博
石田葉月
吉野裕之
渡部義弘
瀬々敬久
鎌仲ひとみ
大宮浩一
園分功一郎
平井玄
磯部涼
雨宮処凛
村上雅信

【上映作】

わが谷は緑なりき
生きていてよかった
世界は恐怖する 死の灰の正体
鳩ははばたく
一年の九日
ストーリー
生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ党宣言
昭和群盗伝2 月の砂漠 (破廉恥舌戯テクニク)
そして人生はつづく
生命—希望の贈り物
ヒバクシャ—世界の終わりに
東京原発
エドワード・サイード OUT OF PLACE
六カ所村ラブソディー
ミツバチの羽音と地球の回転
無常素描



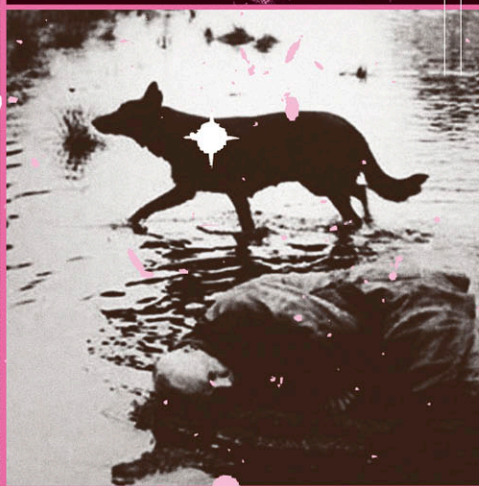
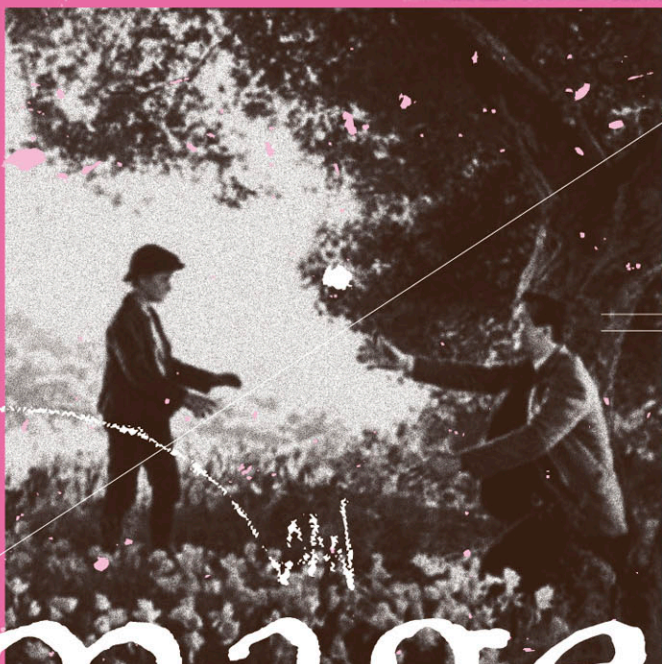
福

Fukushima

福島の現在・過去・未来をイメージするための

映画16本—ゲストトーク

Image Fukushima 2は、東日本大震災の被災地を巡る心揺るがす旅。ゲストトークは、被災地を巡る旅のイメージの形成を語ります。



島

<http://www.image-fukushima.com>

ユーロスペース
EUROSPACE

東京から230キロ——

3.11の震災とともにメルトダウンした福島第一原発。安全神話、成長史観……あらゆる幻想を打ち砕き、歴史の遠近法を狂わせたこの裂け目から出発する。広島、長崎、六カ所、祝島、ハンフォード、チェルノブイリ、台湾、イラン北部、パレスチナ、ウェールズ——福島は、それら幾多の土地と絡み合い、未来を新しく思い描く起点になる。

8月にフォーラム福島で大反響を呼んだvol.1のプログラムをさらに拡張し、渋谷ユーロスペースで開催するImage.Fukushima vol.2。

上映作品 解説 90分

わが谷は緑なりき

ジョン・フォード | 1941年 | アメリカ | 16mm | 118分
社会の変化に翻弄され衰えてゆくウェールズ地方の炭鉱の村を美しい残光のなかで描いたジョン・フォード監督による不滅の傑作。常磐炭産を擁したかつてのいわき、現在の飯館村……あらゆる“故郷”の映画的原型。

生きていてよかった

亀井文夫 | 1956年 | 日本 | VIDEO | 48分
同じ悲劇を繰り返さぬために——従来の常識を覆す大胆なリアリズムで描かれた原爆の爪痕の記録。助け合いながら困難に立ち向かった広島・長崎市民は最後に確認する——「生きていてよかった」。

世界は恐怖する 死の灰の正体

亀井文夫 | 1957年 | 日本 | 16mm | 80分
広島・長崎の原爆投下、そして原子爆実験の後に残された放射性物質＝“死の灰”の影響を科学的に検証する。福島生まれの亀井が半世紀前に言う。「死の灰の恐怖は人間がつくり出したものであって、だから人間がその気にならなければ、必ず解消できる」。

鳩ははばたく

亀井文夫 | 1958年 | 日本 | VIDEO | 42分
原子爆禁止世界大会と平和行進をドラマティックに記録した作品。最初はひとりだった行進が、会場に到着するころには100万人になる。被爆した市民たちによる平和への熱きメッセージ。

一年の九日

ミハイル・ロムム | 1961年 | ソ連 | 35mm | 108分
「ここに描かれるような事はおそらく実際には起らない」。小さな町の原子力発電所の事故後一年間のうちの九日間を断片的なエピソードで描く。被ばくしてしまった若い科学者と所員の人間関係を美しいショットで描いたソ連映画の傑作。

ストーカー

アンドレイ・タルコフスキー | 1979年 | ソ連 | 35mm | 163分
近未来、ある小国に謎に包まれた“ゾーン”と呼ばれる地域があった。「もう何十年も近づけない」「行ったら生きて帰って来られない」「ゾーン」はまるで放射能汚染された土地のようで、タルコフスキーはチェルノブイリを予見していたとまで云われている。

生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまで党宣言

森崎東 | 1985年 | 日本 | 35mm | 105分
福井県には日本初の商用軽水炉である敦賀発電所をはじめと、美浜、高浜、大飯と、13基の原子炉がある。「原発銀座」美浜を舞台に、旅回りのダンサー、ヤクザ、高校教師、原発ジプシー、それぞれの生き様をえがく群像劇。

昭和群盗伝2 月の沙漠

瀬々敬久 | 1990年 | 日本 | 16mm | 62分
原子力発電所で働いていた男が水死体で発見された。背後に蠢く政治的陰謀とは？原発ジプシー、一人一党を唱える右翼の老人、円谷幸吉の遺書……社会派の要素を卑俗で大胆な娯楽映画の想像力で膨らませた傑作映画の逸品！「昭和」の終わりを意識して撮られた。

トークゲスト

- 開沼博 『「フクシマ」論 原子力ムラはなぜ生まれたのか』著者
石田葉月 福島大学准教授『持続型社会は近づいたか』著者
吉野裕之 子どもたちを放射線から守る福島ネットワーク
渡部義弘 福島県立相馬高等学校教諭
瀬々敬久 映画監督『ベグズ ストーリー』ほか
鎌仲ひとみ 映画監督『ミツバチの羽音と地球の回転』ほか
大宮浩一 映画監督『ただいま それぞれの居場所』ほか
國分功一郎 高崎経済大学准教授『スピノザの方法』著者
平井 玄 近現代思想/音楽文化論『ミッキー・マウスのプロレタリア宣言』著者
磯部 涼 音楽ライター
雨宮処凛 作家・活動家『14歳からの原発問題 14歳の世渡り術』著者
村上雅信 ローカルテレビ局記者

●トークゲストは予定しない事項で変更になる場合がございます。最新の情報は公式サイトなどでご確認ください。

そして人生はつづく

アッバス・キアロスタミ | 1991年 | イラン | 35mm | 95分
1990年のイラン大地震直後、映画監督と少年の二人組が仲間の子どもたちを捜しに行く。瓦礫の村々では生き残った人びとの生活が、それでもすでに再開されていた。圧倒的に高精細の画面から紡ぎ出される生の煌めき。3.11以後、待望の国内初上映。

生命一希望の贈り物

呉乙峰 | 1999年 | 台湾 | VIDEO | 142分
1999年9月に起きた台湾大地震。監督が友人と交わす手紙のやりとりを軸に、震災で肉親を失った家族の悲しみが、年老いて施設で暮らす監督の実父との関係とともに描かれていく。死と別離、絶望、そして生きることへの渴望。

エドワード・サイド OUT OF PLACE

佐藤真 | 2005年 | 日本 | VIDEO | 137分
福島県の発表だけで、3万人を越えている県外避難者。パレスチナで生まれ、後半生をニューヨークで過ごし、レバノンに眠るサイド。故郷を離れたパレスチナ難民や歴史に奔走されたユダヤ人達。彼らの証言は、ふるさとを脅かされた私達に何を示すのか。

ヒバクシャ——世界の終わりに

鎌仲ひとみ | 2003年 | 日本 | VIDEO | 116分
見えない放射能汚染、とりわけ内部被曝の実態にせまぬ鎌仲映画の原点。大量の劣化ウラン弾が残されたイラク、アメリカ核施設の街ハンフォード。影響はないと主張する側とあると主張する側——引き裂かれた街の姿が、福島の悲劇を予告する。

東京原発

山川元 | 2004年 | 日本 | 35mm | 110分
「原発は大都市のほうがよく似合う」。都知事の号令で東京原発建設計画が持ち上がる。役人と学者たちが交わす喧々諤々の議論が現在とてつもなくブラックに響く。都知事役の役所広司もお得意の不条理喜劇で魅力全開。

六ヶ所村ラブソニー

鎌仲ひとみ | 2006年 | 日本 | VIDEO | 119分
全国の原発から排出される放射性廃棄物からプルトニウムを取り出す再処理工場が青森県六ヶ所村に完成。ほとんどの住民が受け入れていたが、その矛盾にこだわり、反対運動を続ける人びともいた。孤獨な活動家たちに共感する鎌仲の眼差しが感動を呼ぶ。

ミツバチの羽音と地球の回転

鎌仲ひとみ | 2010年 | 日本 | HD | 135分
貴重な島の自然を守るため、原子力発電所増設計画への反対運動を住民たちが約30年間続けた山口県祝島。地域自立型のエネルギー政策を実現したスウェーデン。ふたつの土地を往復しながら、私たちに可能な未来を指示する希望の映画。

無常素描

大宮浩一 | 2011年 | 日本 | HD | 75分
東日本大地震発生後、最も早く製作・公開された話題を呼んだドキュメンタリー。日付も地名も、人の名も付すことのない映像が未曾有の出来事の「跡」と「後」とを、決して「情報」に還元することなく、スクリーンに大きく映しだしてゆく。

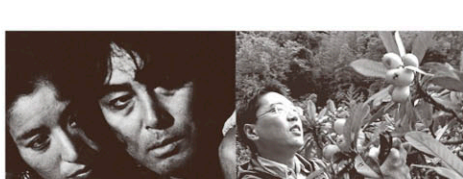


Image. Fukushima

vol.2

IN 東京 | ユーロスペース
2011.9.17SAT—23FRI

主催:Image.Fukushima実行委員会
共催:ユーロスペース/東風
企画協力:カブリオンフィルム
協力:グループ現代/シグロ/日本ドキュメントフィルム/国際/ロシア映画社
プラットフォーム/オタクワン/ハヤタ/ピクチャーズ/シネマトリックス
アネホ・フランセ文化センター 他

【Image.Fukushima】とは……[image]=①名詞。イメージ、映像。②動詞。想像する。心に思い描く。映す。放射能汚染の“見えない”脅威、情報の不確かさ、未来の不透明さ。そこから一歩を踏み出すために、知見とイメージを交換し合う場をつくることを目的とした映画上映&トークプロジェクトです。

http://www.image-fukushima.com

【上映プロフィール】

ジョン・フォード | John Ford
1894年生まれ(～1973年)。サイレント時代からアメリカ映画の黄金時代を体現してきた名監督。アイリッシュたちによる西部劇、家族映画には“望郷”の主題が過剰奏音として響く。

亀井文夫 | Fumio Kamei
1908年生まれ(～1987年)。福島県原町(現・南相馬市)出身。日本の文化・記録映画に大きな足跡を残した巨匠。エコロジー運動の偉大な先駆者でもある。

ミハイル・ロムム | Mikhail Romm
1901年ロシア生まれ。(～1971年)。映画理論を研究した後、1930年代のモスフィルムで監督として活躍。60年代からはドキュメンタリーも手がける。後進の育成にも力を注いだ。

森崎東 | Azuma Moriaki
1927年生まれ。長崎県島原市出身。1969年の『喜劇・女は度胸』で監督デビューして以来、庶民たちの人情喜劇を独特のアクション感覚で作劇して映画ファンに深く愛されてきた。

アンドレイ・タルコフスキー | Andrei Tarkovsky
1932年ソ連生まれ(～1986年)。SFの想像力と四元素(水、火、土、空気)の繊細な感覚をフィルムに定着させる美的感受性。とりわけクリエイターたちから熱烈な支持を集める。

瀬々敬久 | Takahisa Zeze
1960年生まれ。大分県出身。“ピンク四天王”の一角として活躍し、『黒い下着の女 雷魚』(1997)以来カリスマ的な人気を博する。代表作は『ヘブズ ストーリー』(2010)など。

アッバス・キアロスタミ | Abbas Kiarostami
1960年生まれ。テヘラン出身。作目と自然の対立を軽々と越える魔術的な演出力で世界を驚かせ続けてきた現存する最大の映像作家のひとり。

呉乙峰 | Wu Yü-feng
1960年生まれ。台湾出身。代表作は『月の子供たち』(1990)、『陳才根と隣人たち』(1997)など。台湾における公共メディア運動の先駆者であり、映像教育の分野でも活躍している。

鎌仲ひとみ | Hitomi Kamanaka
富山県出身。オルタナティブな映画制作と上映運動を展開するメディア・アクティヴィスト。放射能汚染の実状についていち早く警鐘を鳴らしてきた。3.11以後ますます注目を集める。

山川元 | Gen Yamakawa
1957年生まれ。山形県出身。大手証券会社勤務後、26歳で映画界に入る。鈴木清順からの製作助手、伊丹十三や周防正之の助監督を経て、『唐獅子師匠』(1994)以来、監督として活躍している。

佐藤真 | Makoto Sato
1957年生まれ(～2007年)。初監督作品は『阿貴に生きる』(1992)。日本を代表する記録映画作家のひとりとして幾多の秀作を残す。ドキュメンタリー論の著作多数。

大宮浩一 | Koshi Omiya
1958年生まれ。山形県出身。「ただいま それぞれの居場所」(2010)で文化庁映画賞文化記録映画大賞を受賞。ひとが生きそして死ぬ場所を真摯にそして大胆に見つめる。

【上映スケジュール】

- 9月17日 [土]
10:30— そして人生はつづく
12:30— 生命一希望の贈り物
15:15— ストーカー
18:15— 世界は恐怖する 死の灰の正体
+19:45— ●シンポジウム「福島の現在①」 石田葉月×吉野裕之×開沼博ほか

- 9月18日 [日]
11:00— 世界は恐怖する 死の灰の正体
13:00— 無常素描
+14:25— ●トーク:大宮浩一×瀬々敬久
16:00— 昭和群盗伝2 月の沙漠
18:30— わが谷は緑なりき

- 9月19日 [月・祝]
10:30— ヒバクシャ—世界の終わりに
+12:40— ●シンポジウム「福島の現在②」 渡部義弘×村上雅信ほか
14:00— そして人生はつづく
16:00— 生命一希望の贈り物
19:00— 昭和群盗伝2 月の沙漠

- 9月20日 [火]
10:30— 無常素描
12:15— 東京原発
14:30— ストーカー
17:45— 一年の九日
+19:45— ●トーク:平井玄×磯部涼

- 9月21日 [水]
10:00— ミツバチの羽音と地球の回転
+12:15— ●トーク:鎌仲ひとみ
13:30— 東京原発
16:00— そして人生はつづく

- 9月22日 [木]
10:30— 六カ所村ラブソニー
13:00— 東京原発
15:15— エドワード・サイド OUT OF PLACE
18:00— そして人生はつづく
+19:45— ●トーク:國分功一郎

- 9月23日 [金・祝]
11:00— 生きていてよかった+鳩ははばたく
13:00— 昭和群盗伝2 月の沙漠
14:30— 東京原発
17:00— 生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまで党宣言
+18:55— ●トーク:開沼博×雨宮処凛

【料金】
当日一般:1,400円 | トーク付の回:1,700円 (トークのみ追加:500円)
シニア・学生・会員:1,200円 (トーク付の回:1,500円)
●ミニシアター回数券もお使いになれます。(トーク付の回は+500円)

【賛助会員募集のご案内】
Image.Fukushimaはボランティア・スタッフによるプロジェクトです。福島の問題とともに考える場を維持し、有意義でチャレンジングな映像作品を上映し、ヴァリエーションなトークゲストを招待するために、皆様からひろく賛助金を募っています。詳しくはimage.fukushima公式HPにて http://www.image-fukushima.com
Image.Fukushima 実行委員会
三浦浩哉(会長)/伊藤隆(副会長・福島事務局長)
渡辺祐一(東京事務局長)/吉川正文・鈴木麻美
長沢義久/石川多摩子/佐藤久美/丹治宏夫
小菅佳津子/開沼博/岩崎孝正/藤井豊/藤野亮
成瀬直/寺岡ユウジ/渡部義弘/人見ゆい/吉野裕之
森原厚子/半田哲仁
福島事務局
〒960-8074 福島市西中央3丁目30-1
ラポール西中央101
東京事務局
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-42-11 705
(合同会社東風内)
E-mail: info@image-fukushima.com
Twitterアカウント: @imagefukushima
公式サイト: http://www.image-fukushima.com
デザイン: 渡瀬賢/ウェブデザイン: 八巻紀正+高田隆行 [trvision Inc.]

想像しましょう。

9月17日[土]—23日[金・祝]

渋谷・文化村前交差点左折



03(3461)0211 www.eurospace.co.jp

